

放射線検査を受けられる方へ

【放射線検査による放射線被ばくに関する説明】

① 放射線検査による被ばく線量と人体への影響について

放射線検査とは胸部X線撮影をはじめとした放射線を使用する画像検査です。健康診断では放射線を使用することで病気の早期発見などで利益(メリット)も得るのですが、一方で放射線を使うことにより被ばくする(医療被ばく)ことにもなります。

■予想される被ばく量(およその値)

・ 胸部X線検査	:	0.06	mSv
・ 上部消化管造影検査	:	3	mSv
・ マンモグラフィー(乳房撮影)検査	:	2	mGy
・ 胸部CT検査	:	1.5-2.0	mSv
・ 骨密度検査	:	0.02	mSv
・ 腰椎X線検査(正面・側面)	:	0.3	mSv

環境省「放射線による健康影響等に関する統一的な資料(平26年度版)より一部改変

■人体への影響

・ 確定的影響

放射線は一定の線量(しきい線量)を超えると、発生する頻度や重篤度が増加しますが、通常の健康診断で行われる検査でしきい量を超えることはありません。

・ 確率的影響

低い線量の場合でも、その影響が発生する可能性があるとして予想されています。ただし、100ミリシーベルト(mSv)未満の低線量では、それらのリスクを検出することは極めて難しいとされています。

② リスク・ベネフィットを考慮した検査の必要性

検査によって得られる受診者さんの利益が、放射線被ばくによる受診者さんの人体への影響の不利益を上回ると判断されるため、健診センターでは検査を行っています。

③ 当院における医療被ばくへの取り組み

当院ではこれらの検査において、被ばく線量の基準とされている診断参考レベルに準じて、必要最低限の被ばく線量になるように撮影を行っています。